

精密検査 一般的に「大腸内視鏡検査」が行われます

大腸内視鏡検査は数十分程ですみ、日帰り可能な検査です。検査の前日は食事を早めにすませ、当日は朝食、お茶、薬などをとらずに検査に来てください。大腸内に異常がないか腸壁を観察する検査ですので、腸内をきれいにするために、当日、検査前に特殊な水を約2ℓ飲みますが、腸の表面をより詳細に観察するための大切なプロセスです。詳しくはスタッフにご確認ください。

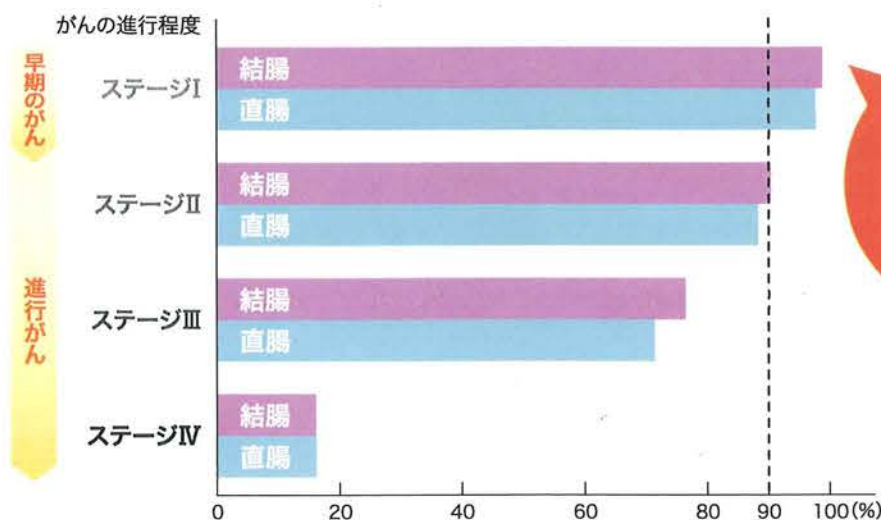


大腸内視鏡検査は、肛門から内視鏡を入れるため、「恥ずかしい」と思われるかもしれませんが、検査着は肛門の部分だけにスリット(切れ目)が入っており、お尻を出す必要はありません。

早期発見・治療すると90%以上が完治!
自覚症状がないときにこそ定期的に「便潜血検査」を!

大腸がんは、早期に発見し治療が行われれば90%以上が完治します(図4)。早期の大腸がんは検診で発見されることが多くなっています。「時間がない」「面倒くさい」「出血は痔が原因だ」「病気が見つかるのが怖い」など、様々な理由で便潜血検査を受けない人がいますが、痔と思っていたら実は大腸がんだったというケースもたくさんあります。定期的に便潜血検査を受けて、早期発見につなげましょう。

(図4) 大腸がんの進行程度による生存率の違い ※大腸がん=結腸がんと直腸がん



出典: 財団法人がん研究振興財団「がんの統計'10」(2010年版) 「全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1998年~2002年診断症例)」

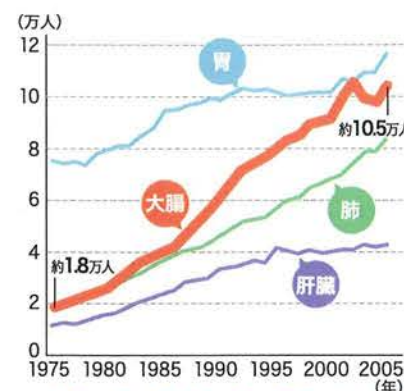
早期の大腸がんでは、ほとんど自覚症状がありません。症状を感じて病院で見つかる場合は、進行がんであることが多いのです(図4)。大腸がん検診で見つかるがんの60%は、完治が見込める早期がんです。一方で、自覚症状や異常が出てから病院で見つかるがんの約80%は進行がんといわれています。早期発見・治療できるかどうかで、その後の治療の結果に大きな差がついてしまいます。早期の段階でがんを見つけて治療するためには、自覚症状がないときにこそ、定期的に検診を受けることが大切です。

今回は、BRAVE CIRCLE 大腸がん撲滅キャンペーンの資料を参考にしました。

罹患数は30年前の約6倍に!
女性ではがんの死亡原因第1位!

大腸がんにかかる人(罹患数)は30年間で約6倍近くに増え、死亡数はがん全体の中で第3位(第1位 肺がん、第2位 胃がん)、女性では第1位となっています(図1・2)。大腸がんは、男女とも40歳代からかかりやすくなります。

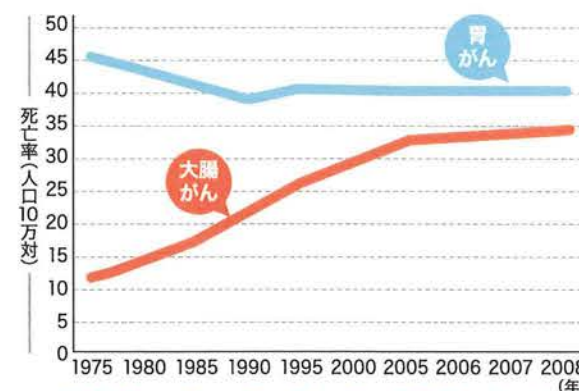
(図1) がん罹患数(全年齢)



大腸がんの罹患数は、近年、著しく増加し、第2位に!

出典: 国立がん研究センターがん対策情報センター 「地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(1975年~2005年)」(2010年公表)

(図2) 大腸がんと胃がんの死亡率の推移



胃がんの死亡率は年々低下していますが、大腸がんの死亡率は増え続けています!

出典: 厚生労働省「平成20年人口動態統計」

大腸がんの検診

一次検査 「便潜血検査」で大腸がんのリスクがあるかどうかを調べます

大腸がんの一次検査は「便潜血検査」を行います。便潜血検査は、自宅で便をとって提出し、便に大腸からの出血が混じっていないかどうかを調べ、大腸がんのリスクがある人をふるい分ける検査です(図3)。簡単な検査ですので、必ず受けましょう。

便潜血検査で「陽性」と判断されたからといって「がん」とは限りませんが、何らかの疾患の疑いがあります。「陽性」と判断されたら、必ず精密検査である「大腸内視鏡検査」を受けましょう。大腸がん検診で要精密検査の割合は約7.2%です(厚生労働省:平成21年度地域保健・健康増進事業報告の概況より)。

(図3) 便潜血検査のしくみ



大腸の患部から出血していると、便が通るときにこすれて血液が混じることがあり、この検査ではその血液を検出します。便をとったらできるだけ早く提出しましょう。

不二越病院
だより

vol.50

えっ!? 「大腸がん」って増えているの?
便潜血検査は大腸がん検診の第一歩



不二越病院 健診センター
新家 悦朗